



## 家族の思い② R君家族より



地域の学校に通っている五年生R君はプロレスが大好きで、よく職員やお友達と、自分の好きなプロレスラーの話題で楽しんでいる様子を目にします。今回は「家族の思い」第二弾として、R君のお母さんから、R君に対する思いをインタビューさせて頂いた内容を掲載したいと思います。



○生まれてから障害があった時

妊婦検診の時から母子共に健康で、順調に成長していることがお医者さんの話からも感じ取られて、出産までの時期を楽しみに過ごしていました。

出産時は3300gと、とても大きく生まれてきてくれましたが、その時は生まれてきてくれた感動よりも、以前から周りでもよく聞いていた「宇宙人が出てきた！」という感想でした(笑)

ただ生まれてからすくには泣かず、低体温症もあり、しばらく保育器に入り別々に過ごしました。一週間ほど経ってから徐々に再会できた時は、とても嬉しかった事を今でも鮮明に覚えています。

その後一歳半頃の時に、発語がほとんど出てこない様子を見て、周りの子との違いを徐々に感じ始め

1歳半検診の時に「発達の遅れ」を指摘されました。

そこで市が行っている養育の教室を紹介されて、

2歳検診の時に初めて「自閉スペクトラム症」と診断されましたが、その時は「せやろな」といった感想で、冷静に受け止めることができ、特に驚きはありませんでした。

当時通っていた病院や養育教室の先生方のフォローもあり、「障害」を「個性」と捉え方を切り替えて、今この子に必要な支援は何なのか、その都度周りに相談しながら、一緒に歩みを進めていくことができた事が大きかったと感じています。

○きらりに通うことになった経緯

保育園年中の時期に市からの紹介で「放課後等デイサービス」の存在を知り、そこから何軒か見学させていただいた中で、きらりの雰囲気や活動内容が本人と合っているのではと感じ、小学校にあがるタイミングで利用することにしました。

通い始めて二年ほどは行き渡る様子もありましたが、今は本人から、きらりでできたお友だちの話を聞くことも増えてきて、先日は初めて一人のお友だちを自宅に招き入れて、きらり以外で一緒に遊ぶ機会を持つこともできました。

学校休みの時も「きらりは行く!!」と、毎日とても楽しみに通っています。

2025年1月

親としても色々な活動を取り入れてくれていることで、家庭だけでは難しい経験もさせてもらっており、とても有難く感じています。

○最後に

今は抽象的な指示だけで理解して動くことが難しく、ただ今後社会に出た時に本人が困る事も多いのではないかと考え、仕事の選択肢の幅も広げてあげたいという思いから、中学の進学先に悩む時期にきています。

息子は小さい時から人懐っこい所があり、これまでも周りの人たちに助けられながら生活できてきました。

これからも自分の持ち味を存分に発揮して、一人で難しいことは周りに協力を求めながら、生活力を高めていき、将来的に自立した生活を送ってほしいと、親として切実に願っています。

